

中森英夫・山田猛・山本雅靖

『下郡遺跡発掘調査報告』上野市教育

委員会・上野市下郡遺跡調査会

山田猛

『下郡遺跡試掘調査概報』三重県教育

委員会

一九七八年

一九七九年

(山田 猛)

三重・小判田遺跡

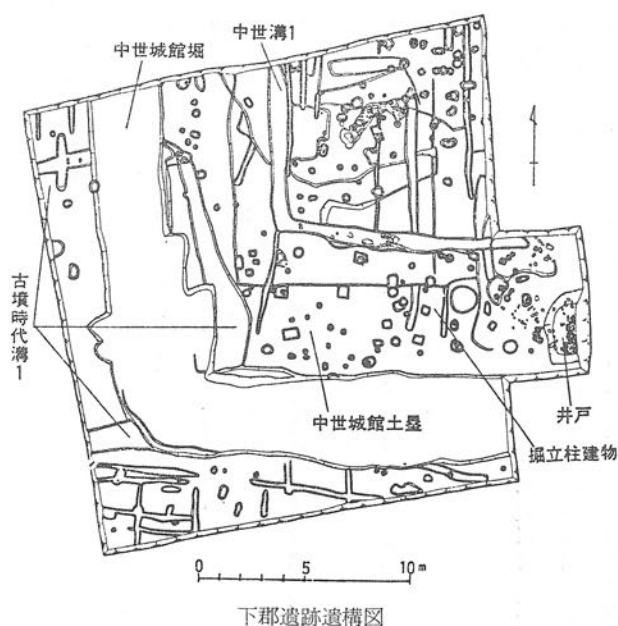
- 1 所在地 三重県四日市市芝田二丁目字小判田ノ字杉本
- 2 調査期間 一九七六年(昭51)九月十五日～十一月九日
- 3 調査機関 四日市市教育委員会
- 4 調査担当者 番条勇雄・北野保(社会教育課)
- 5 遺跡の種類 不明
- 6 遺跡の年代 古墳時代～鎌倉・室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

小判田遺跡は、市街地の標高約5mという低湿地に所在し、四日市市の文化財パトロールによって発見されたものである。

発掘調査は、市立四日市病院の建設工事に伴って行った。調査した箇所は、試掘調査の結果をもとに、約一五〇m離れた南北二地区で実施した。

遺跡の概要は、南地区では、須恵器坏を伴う二×二間の掘立柱建物跡二棟と溝、山茶碗を伴う円形の井戸と考えられる土壇、同じく長方形の土壇で、その内部にU字状を呈したくりぬきの一本造りで両端の木口部分に加工の跡がみとめられる木棺状木製品などが検出された。また、北地区では、山茶碗を伴う土壇や溝と柱根が多数検出された。

検出した遺物は、須恵器、土師器、緑釉陶器、二彩陶器、磁器、





小判田遺跡

山茶碗、木製品、土製品、石製品などと、一点の木簡である。この中で量的に多いのは、山茶碗とこれに伴う木製品である。山茶碗には、底部外面に墨書のあるものが多数みとめられる。漢字または仮名で文字を記したもの、記号風のもの、判読できないもの、意味不明のものなどである。木製品には、下駄、鉢、漆

器碗、櫛、箸状木製品、曲物底板などである。

こうした遺構・遺物から、この遺跡は、一般の集落跡とは異なった性格を有しているものと考えられている。

8 木簡の釈文・内容

「廿内□□」や□□□□□□か □×

194×13×2.081

山茶碗に伴って検出された。スギ材。下部は欠損している。

9 関係文献

四日市市教育委員会

『小判田遺跡』（四日市市埋蔵文化財

調査報告12）

一九七七年

（北野 保）

静岡・城山遺跡

1 所在地 静岡県浜名郡可美村阿原・川原

2 調査期間 一九七七年（昭52）十一月～十二月

3 発掘機関 浜松市立郷土博物館（当時、現在は浜松市博物館）

4 調査担当者 辰巳均

5 遺跡の種類 不明

6 遺跡の年代 七～一六世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

城山遺跡は、伊場遺跡の北西約二五〇mに位置している。一九四九年（昭和二四）の国学院大学による伊場遺跡の調査に合わせて発掘され、施釉陶器や富寿神宝等が検出されて、官衙跡と考えられている。

一九七七年（昭和五二）頃より付近一帯が宅地化されていったため、可美村教育委員会の要請をうけた浜松市立郷土博物館では、同学会員の辰巳均を調査員として派遣して、遺跡の範囲確認にあたらせた。その結果、七世紀代より十六世紀代に比定される土器群、墨書土器、鞆羽口、瓦、陶枕（唐三彩）、木製品、木簡などとともに、溝状遺構等を検出した。

木簡といい施釉陶器・陶枕・富寿神宝といい、通常一般集落では例をみないものである。このことは、当遺跡が伊場遺跡と同じく第